

今回は精神障がい者の作業所の皆さんと、お話ししてきました。

市長とおしゃべり

しませんか？

このページについてのお問い合わせは、市民の声を聞く課☎211-2042へ。内容は、市長のホームページ www.city.sapporo.jp/city/mayor/からもご覧いただけます。

- 日時:7月5日(火)午後5時
- 会場:NPO法人オーク会「支援センターどんぐり」(厚別区)
- 参加者:約60人

テーマ▶精神障がい者の喜び、苦しみ、生きがい

オーク会は、厚別区を中心に、共同作業所や喫茶店、支援センターなど計6カ所の施設運営を行っている。

精神障がい者やその家族、地域の支援者が参加した今回の“おしゃべりしませんか”。作業所の手作りパンを見て、笑顔がこぼれる上田市長。意見交換の内容は具体的で切実なものばかりで、2時間があっという間に過ぎました。

仲間と仕事することが楽しい!

ぱる共同作業所勤務(Sさん)

開店当初からケーキ作りをしています。体調が悪いときもありますが、仲間と作ったケーキが好評で、やりがいがあります。将来は、売り上げがもっと伸びて、給料も上げられればいいなと思っています。

月1回自分たちで
広報誌を作るのが
楽しいです。

ぱんのひろば勤務(Kさん)

パンの製造と販売、広報も担当。



市長から

仲間と一緒に働くことが心の支えになっているのですね。仕事が少ないというのが課題のようですが、皆さんがどういう仕事してるのかを多くの方に知ってもらい、チャンスをつくるのが大切だと思います。市としてもいろいろな場面で作業所の活動を紹介していきたいですね。

仕事の種類をもっと増やしたい!

ドリームワーク勤務(Mさん)

フリーペーパーの発送準備などをしていますが、仕事が減ってきています。そのため、オリジナルの石けん作りもしていますが、今後も新しいことに挑戦したいと思っています。

美味しいコーヒーと
カレーづくりに
誇りを持っています。

れ・ぴゅーる勤務(Tさん)

喫茶店での調理・接客を担当。

地域にとっての作業所とは？



おの 小野さん(地域の人)

知り合いもない札幌に引っ越してきて近所の「kitchenぱる」という喫茶店に出会いました。

気軽に「おしゃべり」ができて落ち着く場所です。ケーキやジャムもおいしくて、家族全員がぱるの大ファンです。

家族の悩み

Nさん(家族)

精神に障がいがある息子がいます。自分が年を取るにつれ、その子の将来が心配でなりません。市は、障がい者の「地域ケア」にどう取り組んでいくのですか？

市長から

地域の中で精神障がい者などが共同生活を送る「グループホーム」が市内には23カ所あります。今後も民間の方と相談して計画的に整備し、地域の中で生活できる体制を整えていく予定です。

市長から

「ぱる」が地域に根付いているのですね。単に障がいのある人が働く場というのではなく、優しさの拠点となっているのを知り、心が温まりました。

市の精神障がい者の状況

仕事や日常生活への不安などから、過去5年間で精神障がい者の数は25,000人から40,000人へと約1.6倍に増加。市では、医療機関・家族・行政などで構成する地域連絡会の設立や、作業所への補助などの精神障がい者への支援を進めています。